

第8回コミュニケーション講座

11月6日(土)に開催しました。

テーマは「コロナ禍のコミュニケーションの工夫」。当センター職員の若林がお話させていただきました。コロナ禍での新しい生活様式は既に浸透しています。その中で、聴覚障害者は「聞こえない」「(口が)見えない」「(人に)近づけない」という3つの「ない」により、コミュニケーションがとりづらくなっています。しかし、その中でも、いろいろ工夫したり、便利なツールを使うことで軽減できることもあります。

勇気が要ることだと思いますが、「聞き返す」ことです。コツもあって、自分が聞き取れたところを声に出してみる、言われることを想像して先に聞く、難聴であることを伝えるなどです。

一方的に講師がお話するだけではなく、実際にコミュニケーションをとりながらの講座となりました。参加者の皆さんからもご自分が使っているツール、工夫していることなど、お話をうかがうことができました。

補聴相談室から

補聴器の湿気について

補聴器の湿気対策については、前号でもお伝えしました。「湿気」というと、夏場の暑さ、汗を思い浮かべるかもしれませんが、冬も要注意です。温度によって、空気に含まれる水蒸気の量が決まっています(飽和水蒸気量)。冬は、寒い室外と暖房が効いている室内では、温度差があります。温度変化によって結露が発生します(寒い朝、窓に水滴がついていますよね)。これが、補聴器の中に発生すると良くありません。耳掛け型補聴器のチューブの中に、目にも見えるくらいの水滴がついていることがあります。音の道を塞いでいますので、音がきこえなくなります。補聴器の内部にまで入ってしまうと部品の劣化に繋がりがねません。「湿気」「水滴」に対しては、年中、注意を払わなければなりません。

当センターの事業についてのお問い合わせは
電話(0466)27-1911/FAX(0466)27-1225
メール soudan@kanagawa-wad.jp 担当 大本



映画紹介『サウンド・オブ・メタル』 〈聞こえるということ〉という副題がついています。

ドラマーの青年がある日突然きこなくなってしまう、失意のどん底から這い上がる様を描いています。中でも、「聞こえない」状態を表現しているのが、リアルでした。実際、人によって違うかもしれませんが、「聞こえない」状態を一瞬でも想像することはできると思いました。

ご案内が遅くて申し訳ありませんが現在上映中(まもなく終了)。

また、Amazon primevideoで観られます。

